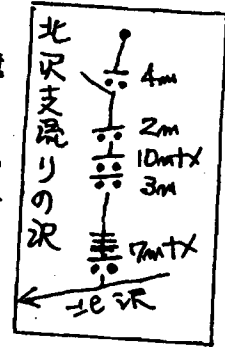


北沢支流りの沢

1989年7月8日

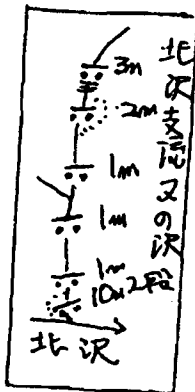
りの沢(仮称)も水量少なく、また短い。ここは出合にナメ滝をかけ、フリクションをきかせて登りきると、そのあともナメが続く。ナメが終わり、すこし歩くと、今度は小滝の連続である。4つ続く。いずれの滝もホールドが適当にあつて、直登する。水量が少ないのが惜しい。ここで一気に高度をかせいでしまい、そのあとすぐ源頭となる。(記・ 女)



[タイム] 遡行開始(10:45)→終了(10:55)

北沢支流又の沢

1989年7月8日



又の沢(仮称)から小尾根を越え急斜面を下って、又の沢(仮称)へ。この沢は水量も少なく、規模も小さい。ただ、出合に10m 2段の滝があるので、調査対象とした。

源頭の湧水地点から少し下ると3mの滝。左岸をクライミングダウンする。このあと1~2mの小滝が続き、やがて最後の滝。落差は10mくらい。左岸の樹林帯を下り、滝の中ほどに出て、あとはクライミングダウンして北沢本流へ。水量の少ない時なら、シャワーで直登することはできそうである。(記・

[タイム] 下降開始(10:20)→終了(10:35)

北沢支流ルの沢右俣、左俣

1989年7月8日

8:45ルの沢(仮称)右俣に向けて下降開始。やぶ沢からガレ沢となり、滝一つかからない。花崗岩に変われば何か何か出てくるさと考えながら先を急ぐ。やがて岩質が変わる。待望の花崗岩地帯。さあてとはりきったが、そこはもう左俣出合の直前であった。結局右俣には滝かからなかった。

二俣でいったん下降を中止して、左俣に入る。すぐに岩質が変わり、黒い変成

岩地帯になる。右俣同様にまったく平凡かと思っていたら、源頭近くになって滝が出てきた。まずは3m。右岸を直登。しっかりしたスタンスがある。そのあとも小滝が続く。いずれもホールド豊富。小滝群を越えた先が源頭であった。

二俣より下部はずっと花崗岩地帯である。しかしこの沢に限っては滝が少なく、シャワーを浴びつつクライミングダウンした4m滝が唯一であった。9:50下降終了。

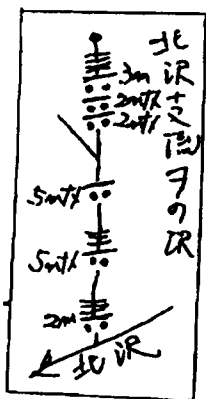
(記)

[タイム] 右俣下降開始(8:45)→二俣(9:05)→左俣終了(9:25)→二俣(9:40)→下降終了(9:50)



北沢支流ヲの沢

1989年7月8日



ヲの沢(仮称)は短い。出合の小滝からしばらくは傾斜が緩やかであるが、そのあと5個の小滝が続いて、一気に高度を稼ぐ。最後の小滝を登れば、すぐ源頭になる。源は他の多くの沢と同様、岩屑の下から湧きだす清水である。

5個の小滝群はすべて直登した。いずれも花崗岩の滝で、安定したホールドがあるため、直登は楽である。(記)

[タイム] 遡行開始(10:00)→終了(10:10)

宮川支流一ノ沢(仮称)

1989年8月12日

五ノ沢(仮称)源頭から尾根づたいにかすかな踏跡をつたって、一ノ沢(仮称)源頭の小ピークに出る。このピークは、山頂部が岩場となっていて樹林がなく、展望がよい。眼前に五来山と大笹山がそびえ、北沢流域がすべて見渡せる。6:05下降開始。

樹林帯の中を5分程下ると、一ノ沢の源頭に出る。そしてすぐ2mの小滝。プ